

2016年4月  
1097号

# 万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)



## 伝統工芸の宝庫に生きる 京人形師關原紫光さん

關原紫光さんはお伴の伊規須さんと共に、4月29日夜、一冊の会事務所に来所。今夜もまた、渋い茶柄のお召し物が良く似合い、しかも上品で背も高く京美人そのもの。淑やかな、中にもきりりとした佇まい。日本女性の誇りと気高さを彷彿させるお姿に思わず美しい。と見とれてしまいました。

### ご招待を頂き展示会（東京）で再会



実は東京でのご招待を頂いており、2日前に紫光さんのお人形の作品を拝見させて頂きました。

「ようこそ！お久しぶり！お目にかかれて嬉しいわ！」とお互いに両手を広げ抱き合いました。

京人形と共に世界を廻り、日本の伝統芸術の展示に忙しい紫光さん。

輝くばかりのオーラに満ちている。思わず「キャリアは素晴らしい！大きく成られましたね。」と。成長を称えあうひと時となりました。この

日は、紫光さんは艶やかな黒と白の総絞りのお

召し物を着て満面笑顔で迎えて下さいました。芸術作品の京人形がひな壇にずらりと並ぶ展示場内は雅な雰囲気みやびに包まれおり、壁に飾られた画竜・あ・ん・の2頭は今にも踊り出

てくるかのように生き生きとした画が、お人形のバックえに飾ってありました。「まあこの画はまるで生きているようですね。」と。「そうですね。実は美大を出た娘がこの展示会のため、母のために命を削る思いで描いてくれました。初めての事なのよ。」嬉しそうな母の喜びが笑顔に溢れておりました。

周りを見渡して見るとなんと経済会の巨頭・稲垣さんの立派なお花が贈られ飾ってありました。お父上の紫水しすいさんの人脈に感謝する娘の姿に思わず拍手。

私たちは以前、お亡くなりになられた紫水先生（京人形製作の第一人者）には大変お世話になりました。

世界の有識者との“華の懸け橋役”を先生の作品が担って下さり、深い交流が出来たのです。例えば、新日本国憲法14条と24条を起草したベアテ・シロタ・ゴードン女史とのお付き合いも家族ぐるみの交流に発展した等々、の経過を説明すると紫光さんも心から喜んで下さいました。

「お時間を見て開催中に事務所にお越しく下さい。」とお誘いすると「是非伺いたいわ！」ということになり事務所で懇談会を開催する運びとなりました。

### 事務所での語らい

夕食を<sup>いただき</sup>ながら紫水先生を<sup>しの</sup>偲び、娘として伝統工芸に生きる道を選んだ心境を明かされ芸術の道の厳しさ等体験を通して語られました。そんな茨の道も、その目的は”何のため“か、を腹に据え一つ一つ貴重な経験として乗り越えて来た。とのこと。その言葉には千金の重みがありました。

それぞれ道は違えども、一流になるには中途半端な気持ちでは前に進むことはできません。共感する事ばかりでした。



「自分で選んだ道です。この世界は男社会 200 人中女性 1 人です。若い頃はコンパニオンと間違われた事も度々ありました。しかし父が同じ業界にいるので差別を感じることもなく 1995 年には青年会・会長を務めました。父ではなく京人形の第一人者の師匠としてみるようになって、父の姿から自分の無知・未熟さが解るようになりました。今更の如く厳しい道であることを思い知りました。今、迷いはありません。世界の人々に伝統工芸でもある日本文化の京人形を伝え行くという使命に燃えています。」ときっぱり。

「紫水先生は神々しい雰囲気があり人形に命を懸けていらっしやいましたね」というと「自分の仕事を愛し生き甲斐を持った父を尊敬しております。私は人形一筋に打ち込んで日本工芸の素晴らしさを伝えて行く一人になりたいと願っています。」と語って下さいました。何とも言えない独特な風格は、日本の<sup>いにしえ</sup>古の伝統でもある<sup>わ</sup>侘び・<sup>さび</sup>寂の世界に<sup>いざな</sup>誘い余韻となっていていつまでも心に響きました。

紫光さんとの語らいで、今宵も素敵な一夜を過ごすことが出来ました。

心を開きご縁のある人々との絆を大切に友好の華の懸け橋に感性豊かで爽やかな華を咲かせることが出来ました。

### 幸せな一夜に感謝して



文責：大槻・小山・新井